

# 阪南市公共交通基本計画 概要版

## 計画策定の背景と目的

本市においても人口減少や、高齢化の進展が見込まれるなか、中心市街地である南海本線尾崎駅周辺の賑わい機能の強化、すべての人々が活動しやすいための環境整備、また、加齢に伴い自動車を運転できなくなる市民の移動手段の確保が今後の課題です。

こうしたなか、公共交通利用による外出機会の増加を図ることで、徒歩による移動量の増加に伴う市民の健康増進、交流の活性化、目的地付近の滞留による賑わいづくり等が期待できるものと考えられます。

こうしたことを踏まえ、今後まちづくりに関する施策と連携した、将来にわたって持続可能な本市の公共交通のあり方を示す『阪南市公共交通基本計画』を策定するとともに、阪南市総合計画など上位計画と一体性をもち、将来の都市像を実現させるための交通面からの施策を推進するものです。

## 対象区域と計画期間

本計画で対象とする区域は、「阪南市全域」とします。

本計画の期間は、策定の次年度である平成 30 年度（2018 年度）を開始年度とし、公共交通サービスの前提となる人口や施設立地の変化等を踏まえ、10 年後の平成 39 年度（2027 年度）を目標年度とします。

また、目標の達成状況や社会経済情勢などの変化への対応や上位計画の計画期間を考慮して、概ね 5 年を目途に見直しを行っていくものとします。

## 公共交通に係る課題

今後も持続可能な公共交通のあり方を検討するにあたっては、各公共交通機関単独での利便性向上だけでなく、それぞれに役割分担を行いながら全体的に機能向上を図る必要があります。こうした考え方のもと、本市の上位計画における土地利用等の方針や将来的に見込まれる移動ニーズに応じて、以下のとおり公共交通の階層に分類し、課題を整理しました。

<b>(1) 公共交通の階層別課題</b>	<b>広域基幹交通</b>	定時性の確保 円滑な乗継ぎ等を実現するための結節機能の強化や運行状況等の情報提供 市内観光資源との連携によるアクセス機能の強化	
	<b>市内基幹交通</b>	定時性の確保 鉄道間を結ぶフィーダー機能の向上 南海本線尾崎駅周辺等の拠点における賑わい・活性化を支援する公共交通体系の構築	路線バスとコミュニティバス「さつき号」の役割分担の明確化 公共交通の持続性を高めるための路線バスとコミュニティバス「さつき号」料金体系の見直し
	<b>地域内交通</b>	地域主体による公共交通を守り、育てる意識の醸成 地域の実情に対応した公共交通体系の構築	
<b>(2) 公共交通全般</b>	将来の公共交通利用ニーズのための公共交通の持続性の確保や柔軟な公共交通サービスのあり方 自動車利用者に対する公共交通利用の理解 商業施設等の多様な主体との連携 高齢者と若年層の公共交通利用による同伴移動の促進		

## 基本理念

本市ではモータリゼーションの進展とともに住宅開発や幹線道路整備が進み、市街地が拡大しました。人口増加に伴い市民の移動手段は、自動車が多い傾向にあります。しかしながら、今後人口減少や高齢化の進展に対応したまちづくりを進めていくなかで、市民の移動手段として公共交通の役割が改めて重要になると考えられます。

そこで、将来の公共交通利用の確保の観点より、これまでの自動車中心の移動手段から公共交通と自動車交通の融合を推進することで、目的や状況に応じて多様な移動手段が選択できる交通体系の構築による「公共交通と自動車交通のインテグレーションの実現」をめざします。

### 公共交通と自動車交通のインテグレーションの実現 ～多様な移動手段が選択できる便利な暮らしが持続できるまちをめざして～

- ・本市における将来のまちづくりの実現に向けて、これまでの自動車中心の移動手段から、公共交通と自動車交通の融合を推進することで、目的や状況に応じて多様な移動手段が選択できる交通体系の構築をめざす。
- ・シームレスな交通体系を構築することで、異なる交通モード間の乗継抵抗の軽減が図られるため、利用しやすい公共交通サービスにより、まちに誘い出され、歩くことで元気に暮らすことができるまちづくりを推進する。これにより、徒歩による移動機会の増加やまちの賑わいの創出が期待できる。
- ・住み慣れた地域で安心して生活が続けられ、公共交通による移動ができるまちづくりを推進する。

## 基本方針

本計画の基本理念を踏まえ、公共交通ネットワークの機能向上を図る観点から階層別に分類した「広域基幹交通」、「市内基幹交通」、「地域内交通」に対応する以下の基本方針を設定します。

### 基本方針 広域交流の促進を支える公共交通

- ・市内の公共交通ネットワークを総合的に捉え、公共交通機関相互の連携や結節機能強化を図ることにより、利便性の高い公共交通を確保する。
- ・市内の自然や歴史の観光資源への公共交通によるアクセス性向上を図る。

### 基本方針 地域間や拠点への移動を支える公共交通

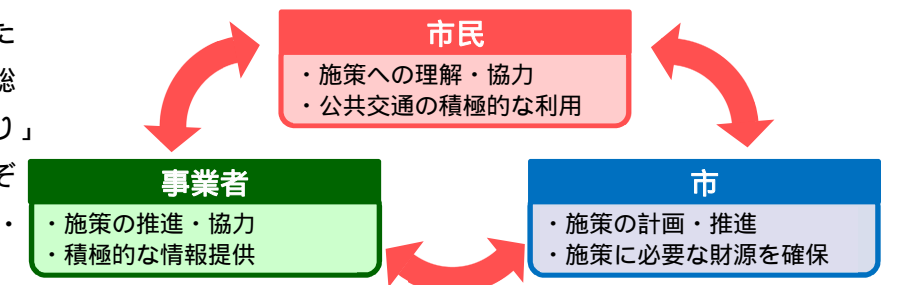
- ・都市拠点や交通結節点等への移動、市内の地域間への連絡性の強化に向けた公共交通によるアクセス性向上を図る。

### 基本方針 日常の暮らしや地域の賑わいを支える公共交通

- ・地域の特性やニーズに応じた柔軟な交通体系により、日常生活の移動手段の確保を図る。
- ・地域の「提案」に基づいて利用促進活動を行うなど、地域住民・行政・交通事業者の協働により公共交通の維持・活性化を図る。

## 各主体の役割

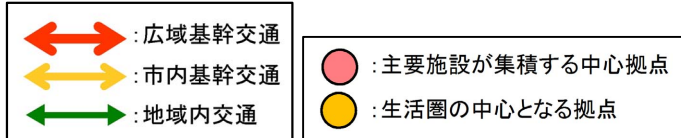
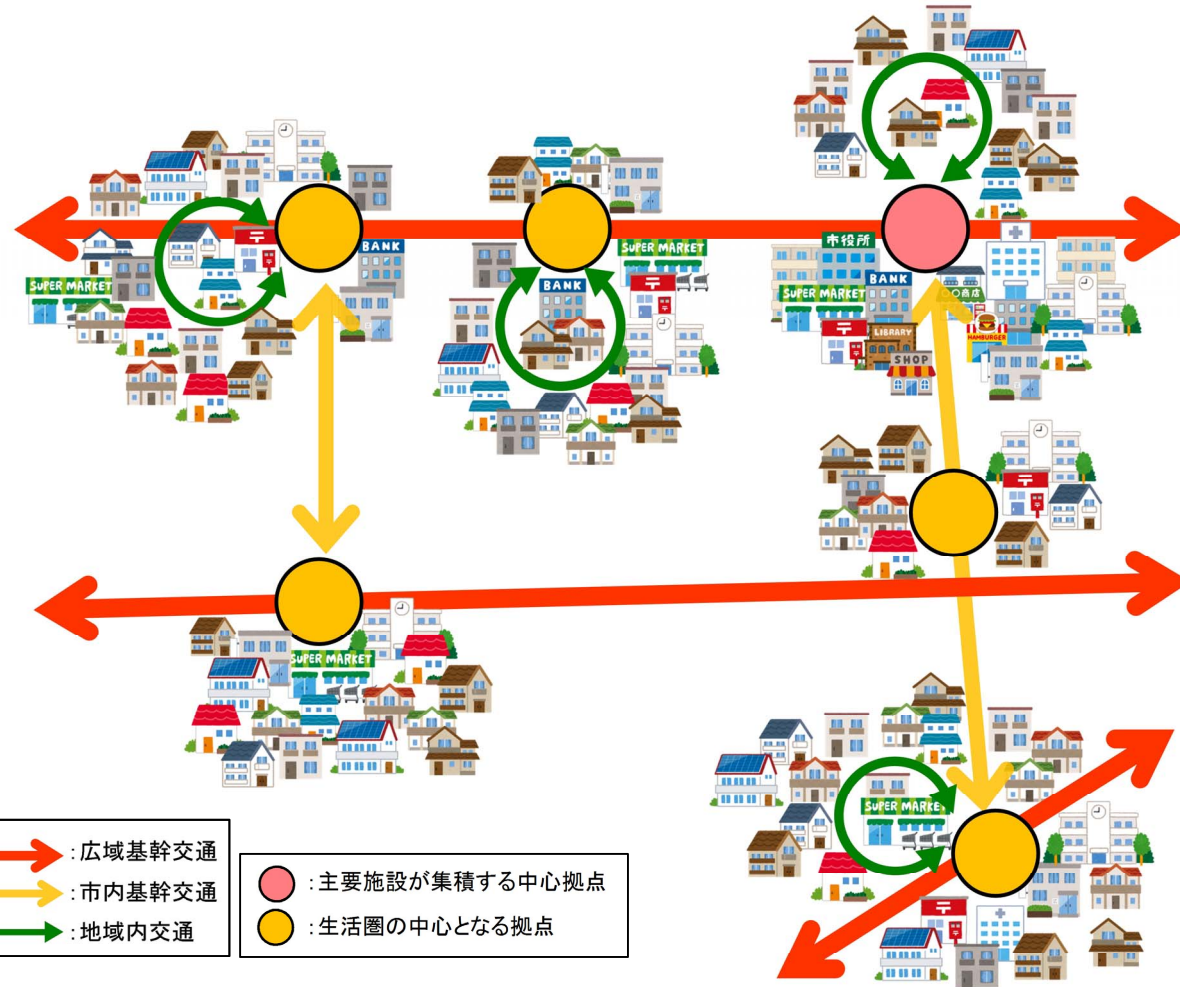
本計画における基本理念の実現に向けた取組を適切に進めるにあたっては、阪南市総合計画で掲げている「協働によるまちづくり」に基づき、「市民」、「事業者」、「市」それぞれの主体が、果たすべき役割を十分に理解・認識し、協働・連携により、取組を進めます。



インテグレーション (integration) とは統合、融合、融和等を意味します。

## めざすべき公共交通体系の将来像イメージ

基本理念や基本方針に基づき取組を進めることで、本市の公共交通体系のめざすべき将来像として、広域基幹交通、市内基幹交通、地域内交通をネットワーク化します。



### 広域基幹交通

阪南市から泉州地域及び大阪市等への移動や阪南市への来訪者の移動のための広域的な移動を支える役割を担う

### 市内基幹交通

市内の主要施設が集積する中心拠点や生活圏の中心となる拠点への移動を支える役割を担う

### 地域内交通

主に広域基幹交通や市内基幹交通への交通手段として、市内や地域内移動を支える役割を担う

## 基本理念を実現するために必要な取組の方向性・施策例

階層別に設定した基本方針に沿って進める取組として、公共交通の利便性向上を目的とした「交通結節点の整備による機能向上」と「公共交通ネットワーク改善による地域公共交通システムの構築」、「公共交通の利用環境の改善」に向けた取組と併せて、賑わい再生を目的とした「公共交通による外出機会の増加」に資するような施策も並行して取り組んでいきます。

これらの取組を行うことで、公共交通の利用促進につながり、結果的にまちの賑わい創出に繋がるものと考えられます。

### ■基本方針

- 基本方針① 広域交流の促進を支える公共交通
- 基本方針② 地域間や拠点への移動を支える公共交通
- 基本方針③ 日常の暮らしや地域の賑わいを支える公共交通

### ■基本理念を実現するために必要な取組の方向性

#### 公共交通の利便性向上

交通結節点の整備による機能向上

- 施策例1 交通結節点における乗継利便性の向上に係る検討
- 施策例2 交通結節点における公共交通情報提供の拡充に関する検討
- 施策例3 尾崎駅の交通結節点機能向上に関する検討

公共交通ネットワーク改善による地域公共交通システムの構築

- 施策例4 持続可能な公共交通ネットワーク構築に向けた検討
- 施策例5 鉄道駅周辺道路や都市計画道路の整備推進
- 施策例6 地域主体による新たな公共交通システムの導入に向けた取組支援の検討

公共交通の利用環境の改善

- 施策例7 バス停近隣施設等を活用したバス待合環境の整備検討
- 施策例8 公共交通に関する情報提供の実施検討
- 施策例9 利用しやすい環境整備の検討

#### 賑わい再生

公共交通による外出機会の増加

- 施策例10 多様な世代間での公共交通利用による外出促進の検討
- 施策例11 商業施設等との連携による特典等の検討
- 施策例12 高齢者の外出機会促進に向けた公共交通利用支援の検討
- 施策例13 公共交通利用促進に向けた啓発・周知活動の実施検討
- 施策例14 地域とともに守り育てる公共交通の仕組みづくりの検討

公共交通の利用促進

まちの賑わい創出に貢献

## 計画の進行管理・評価指標

P D C Aサイクルに基づいた効果の計測と状況に応じた計画の見直しができるように、比較的容易に効果計測ができる以下の指標を設定します。

- ・「評価指標」：基本理念及び基本方針の達成状況を評価するための指標
- ・「サブ指標」：まちづくりの視点等、評価指標を補完するための指標

基本理念	評価指標	現在値	目標値
公共交通と自動車交通の インテグレーションの実現 ～多様な移動手段が選択できる便利 な暮らしが持続できるまちをめざして～	主な外出先への交通手段のうち公共交通が占める割合	平日:26% 休日:18%	平日:33% 休日:20%
	自家用車がなくても(運転できなくても)気軽に移動できると思う人の満足度	15%	本計画住民アンケート 調査結果を上回る
	鉄道とバス及びバス間の乗継利用の利便性が向上したと思う人の割合	なし (次回アンケートで把握予定)	現在(本計画策定時) よりも上回る
基本方針	評価指標・サブ指標	現在値	目標値
基本方針 広域交流の促進を 支える公共交通	評価指標 南海本線尾崎駅の1日平均乗降客数	11,468人/日	人口減少による乗降客数減少に 対して現状維持を図る
	サブ指標 阪南市から大阪市や他都市への公共交通での移動について利便性が向上したと思う人の割合	なし (次回アンケートで把握予定)	現在(本計画策定時) よりも上回る
基本方針 地域間や拠点への 移動を支える公共交通	評価指標 主な外出先への交通手段のうち路線バスが占める割合	平日:2.7% 休日:2.1%	本計画住民アンケート 調査結果を上回る
	サブ指標 「駅周辺を楽しく歩いて回遊ができる」という質問のうち、「満足」もしくは「やや満足」と回答した人の割合	11%	本計画住民アンケート 調査結果を上回る
基本方針 日常の暮らしや地域の 賑わいを支える公共交通	評価指標 コミュニティバス「さつき号」の1便あたり平均乗車人数	12.9人/便	13.5人/便
	サブ指標 公共交通に関する勉強会の開催回数	3回/年	平成29年度の 開催回数以上の実施

現在値の設定の考え方は、本編P84～P87に記載

お問合せ先 阪南市 事業部 都市整備課

〒599-0292 阪南市尾崎町 35 番地の 1

TEL 072-471-5678 (代表) FAX 072-471-5781